

## 請願第6号

請願 玉川学園コミュニティーセンター（CC）建替基本計画のデッキ整備  
計画凍結を求める請願

### 請願要旨

町田市では、老朽化により多くの公共施設等の更新期を迎えているが、これらの施設を維持更新するには年間36億円の費用が不足し、全ての公共施設の更新ができない状況になっているとして、公共施設等の縮減のため「町田市公共施設等総合管理計画」を策定し、「公共施設再編計画」による具体的な公共施設の縮減計画が進められようとしています。

インフラに関しても、橋梁については、60年間の維持更新費用を約36億円縮減する橋梁管理計画（長寿命化修繕計画）が策定されています。

しかし、博物館や文学館をはじめ各地の図書館等の閉鎖が発表されると反対運動が広がり、昨年は、文学館、博物館や鶴川の図書館閉鎖に反対する請願が提出され、市議会で採択されています。

このように、維持更新費を削減するための公共施設の閉鎖縮減は、いずれも反対運動に直面し、計画通り進めるのはきわめて困難であることがわかります。

このため、維持更新費用が新たに増加する施設等の新設計画は、その必要性を慎重の上に慎重に検討しなければなりません。

玉川学園駅前歩道橋（ペDESTリアンデッキ）整備計画（以降、デッキ計画と略す）においては、50mほどの長さで3.5億円の法外な予算の新設計画で、将来の維持費も高額になる計画です。デッキ新設後の維持費を含めると橋梁管理計画で縮減が期待できるとする金額の2割程度が本デッキ新設で失われることとなります。

このように、維持更新費の縮減に努めている町田市においては、新たに費用が発生する新設計画には特に注意深く必要性を検討しなければなりません。

しかし、玉川学園コミュニティーセンター（CC）建替え検討委員会においては、デッキ計画は長年の委員会審議の最終段階で初めて議題となり、十分に審議されていません。

バリアフリー化がデッキ新設の目的とされながら、検討委員会ではデッキの傾斜は条例の規定の範囲内としながら、車いすの自力走行は困難と説明されました。

当初から計画されたエレベータ設置について、車いすで生活される方々によると、バリアフリー化には道路から直接アクセスできるエレベータは実用的であり、良い計画であると述べており、バリアフリー化がデッキ新設の目的とするには説得力が薄れています。

また、デッキ利用者の予測調査を全く行わないなど、高額予算を支出する判断に必要な事業評価は全く行っていないことが事業説明会等で判明しました。

しかも、検討委員会ではCCとデッキの設計案の説明がありましたが、住民への設計案の説明と意見聴取を行うことが定められているのにも関わらず実施されないなど、維持更新費の縮減に努力しているはずの町田市のやり方としては、とても考えられない住民を無視した強引な手法で決定された事業化計画です。

昨年、住民に知らないうちに決定された計画であることや、住民の意見聴取実施や事業評価をほとんど行わない等の手続き不備を指摘した本デッキ計画見直し等に関する5件もの請願について、市議会ではいずれも採択されませんでした。

住民に知らせず、法令に定められた手続きを無視する町田市の手法を認めることになる市議会の不採択の判断は残念です。

「町田市公共施設等総合管理計画」や橋梁管理計画（長寿命化修繕計画）を策定して維持更新費の縮減に努めている町田市に於いて、新設の必要性を十分に検討せずに決定した多額な費用負担を伴う杜撰なデッキ事業計画は、財政難の町田市において実施すべき事業とは到底、認められません。

従って、3.5億円の法外な予算のデッキ計画を凍結し、増加する維持管理費等の支出に値する事業であるか否かの十分な検討を行うことを求めます。

#### 請願項目

玉川学園コミュニティーセンター建替事業のうち、デッキ整備計画を凍結し、「町田市公共施設等総合管理計画」や「橋梁管理計画（長寿命化修繕計画）」等の公共施設等の財政難対策との整合性を検討し、事業計画必要性の精査を求める。